

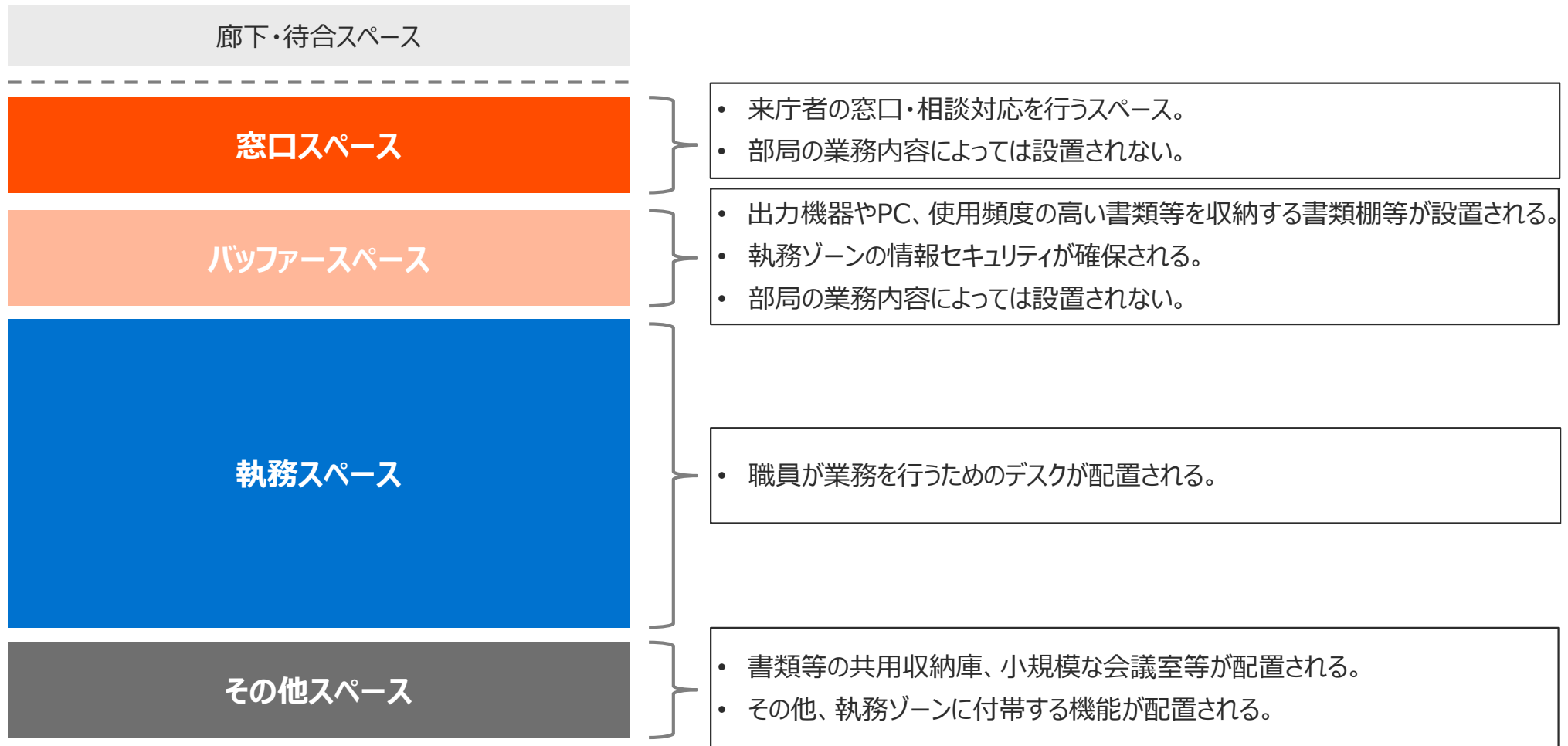
宮崎市新庁舎建設基本計画 検討資料

執務スペースに関する整理

1. 執務スペースの定義

- 一般的に、庁舎における執務空間は、窓口スペース、バッファースペース、執務スペース、その他スペースの4つで構成されると整理できる。
- ここでは、上記のうち執務スペースについて、検討を実施する。

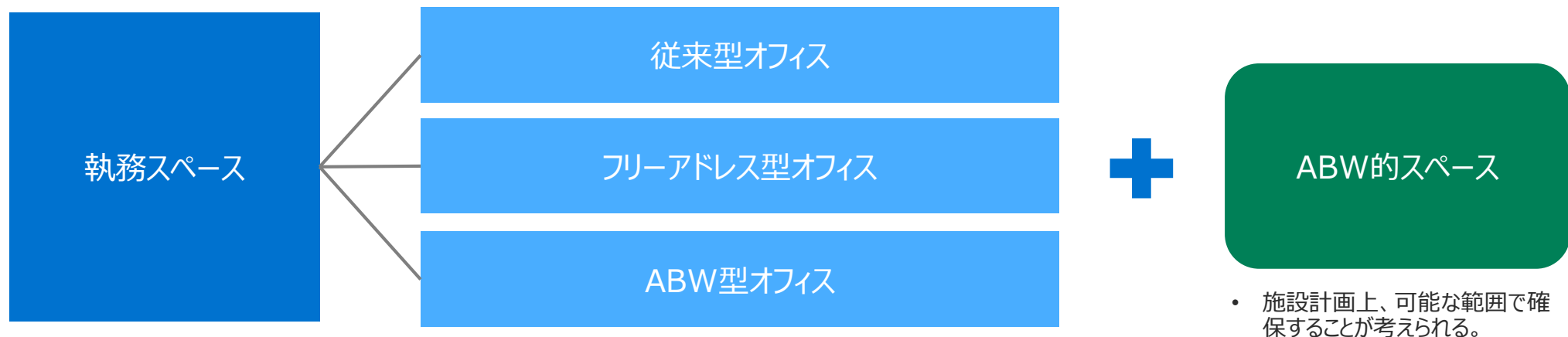
執務空間の基本的な構成



2. 執務スペースの検討の概要

- 執務スペースのあり方は、最近の働き方等のトレンドを踏まえると、**従来型**、**フリーアドレス型**、**ABW型**の3通りのタイプに整理することができる。
- 各タイプの典型的なプロトタイプを作成し、所要面積等の特徴を明らかにすることで、新庁舎における執務スペースについて検討する。
- また、近年の行政庁舎の事例では、**執務環境の改善等を目指し、従来型・フリーアドレス型を採用しながら部分的に「ABW的な共用スペース」を併設するような事例もある。**
- プロトタイプによる検討では、「ABW的な共用スペース」の1席当たりの所要面積も算出する。

執務スペースの基本的な構成



3. 執務スペースのプロトタイプの設定について

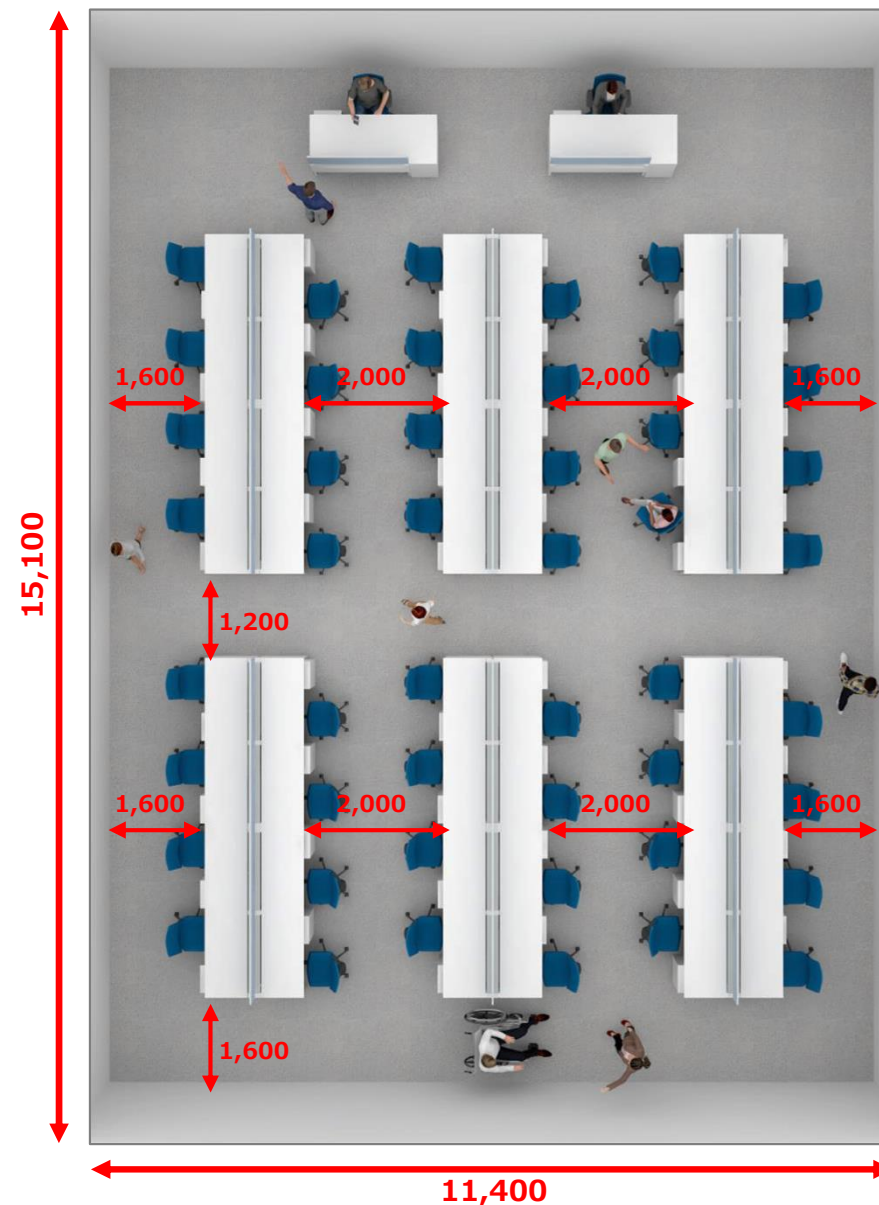
- ・ 執務スペースのプロトタイプの作成に当たっては、以下のとおりである。

	従来型オフィス	フリーアドレス型オフィス	ABW型オフィス
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての職員に自席が割り振られ、自席で働く形式。現庁舎を含む多くの庁舎で採用されている最も一般的な形式。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員に自身が業務を行う座席を割り振らず、各職員が自分で座席を自由に選択して働く形式。 ・ デスクはフリーアドレスまたはグループアドレスとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が業務等に合わせて働きやすい環境を選択して働く形式。 ・ デスクは通常の執務用のものほか、作業に集中するための集中ブースやコミュニケーションを促す交流タイプなどがある。
席数	50席 (職員一人につき1席)	50席程度 (登庁職員一人につき1席)	50席程度 (登庁職員一人につき1席)
役職者の座席	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部長級のみ設置 (2席を想定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部長級のみ設置 (2席を想定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設置しない
今回の検討に含めるスペース	<ul style="list-style-type: none"> ・ 執務スペース（職員が着座し、執務作業を行うスペース。窓口や収納庫、会議室は含めない。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 執務スペース ・ 個人用ロッカースペース 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 執務スペース ・ 個人用ロッカースペース

4. プロトタイプ／従来型オフィス

- 従来型オフィスのプロトタイプは以下のとおりである。

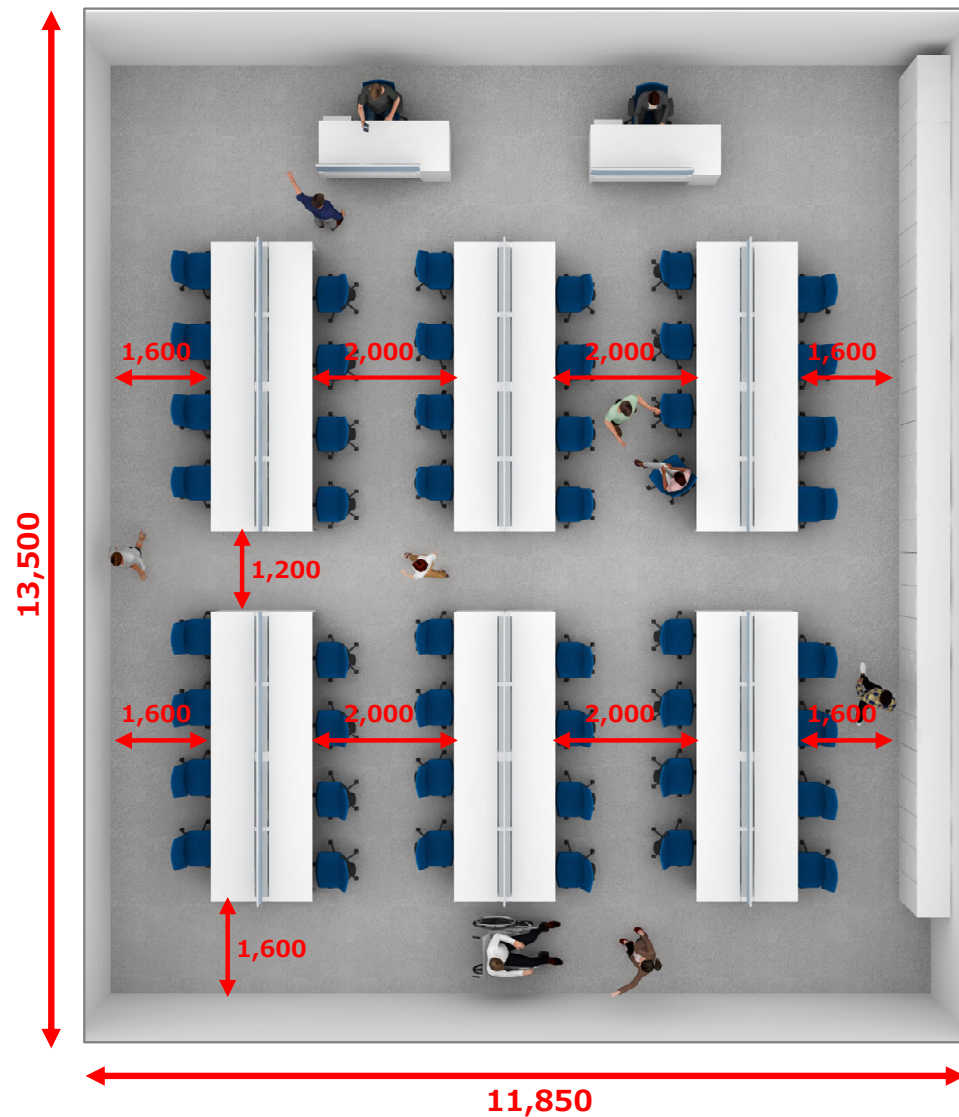
項目	設定
席数の設定	一般職：48席 部長級：2席
デスク寸法	W1200×D700 (デスクワゴンあり)
通路寸法	デスク-デスク間：2,000mm デスク-通路間：1,600mm
所要面積	172.14㎡
単位面積	3.44㎡/席



4. プロトタイプ/フリーアドレス型オフィス

- フリーアドレス型オフィスのプロトタイプは以下のとおりである。

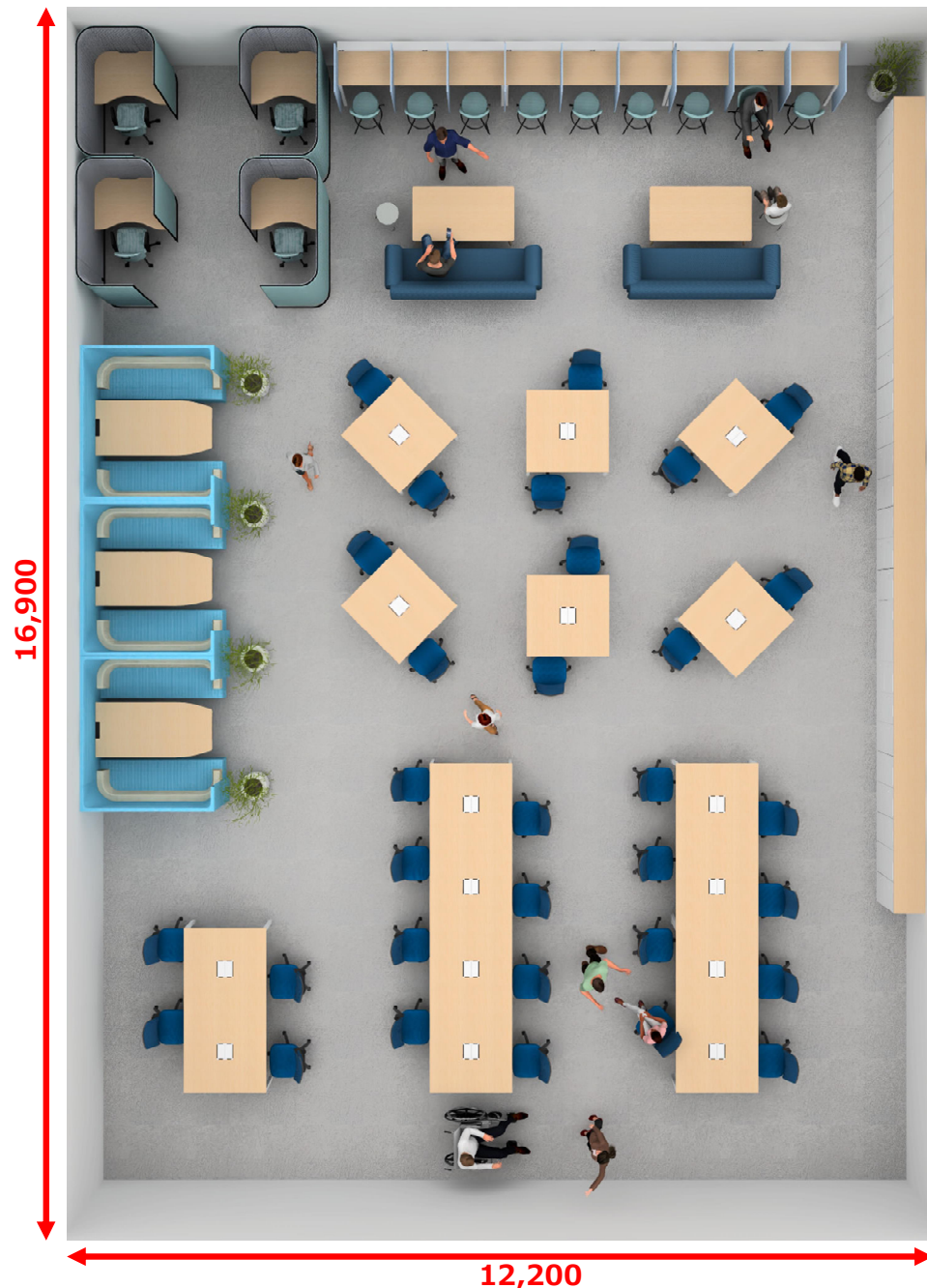
項目	設定
席数の設定	一般職：48席 部長級：2席
デスク寸法	W1000×D700 （デスクワゴンなし）
通路寸法	デスク-デスク間：2,000mm デスク-通路間：1,600mm
所要面積	159.98㎡
単位面積	3.20㎡/席



4. プロトタイプ／ABW型オフィス

- ABW型オフィスのプロトタイプは以下の通りである。

項目	設定
席数の設定	従来のオフィススペース：20席、交流スペース：3席、対面スペース：12席、集中スペース：9席、WEB会議対応スペース：4席（1ブース1席として換算）、リラックススペース：2席（1箇所1席として換算） ※役職ごとの座席は設置しない。
所要面積	206.18㎡
単位面積	4.12㎡／席



5. 執務スペースのプロトタイプ^oの整理と採用が想定されるプロトタイプ^o

- 執務スペースの各プロトタイプ^oの所要面積等を整理すると下表のとおりである。
- フリーアドレス型オフィスは、従来型オフィスと比較して7%程度所要面積を縮小することも可能である。
- ABW型オフィスは、従来型オフィスと比較して20%程度所要面積が大きいことがわかった。面積効率で、他のプロトタイプ^oに劣ること、働き方の関係上、全ての部局に導入することが難しく、従来型・フリーアドレス型オフィスの部局との職場環境に大きな差が生じてしまうことを考慮し、現時点の採用は想定しないものとする。
- 以上より、新庁舎の執務スペースは、従来型オフィス及びフリーアドレス型オフィスを基本に検討を進める。

各プロトタイプ^oの概要について

	従来型オフィス	フリーアドレス型オフィス	ABW型オフィス
長辺 (m)	15.10	13.50	16.90
短辺 (m)	11.40	11.85	12.20
面積 (㎡)	172.14	159.98	206.18
単位面積 (㎡/席)	3.44	3.20	4.12
従来型に対する割合	-	93%	120%

参考：「ABW的な共用スペース」について

- 昨今整備される庁舎においては、執務環境の改善等を目的に、従来の執務スペースに加えて「**ABW的な共用スペース**」を設置するような事例も出てきている。
- 今回検討したABW型オフィスのプロトタイプを基に、部分的に「**ABW的な共用スペース**」を設ける際に、どの程度のスペースが必要か算出したを行った。
- 「**ABW的な共用スペース**」においてはロッカースペースが不要であるため、ABW型オフィスのプロトタイプからロッカースペースを除くと、**所要面積は198.57㎡、1席当たりの所要面積は3.97㎡／席となる。**
- よって、**200㎡程度のスペースを確保することで約50人分の「ABW的な共用スペース」を設置できる**ことがわかる。
- このスペースを設置することについては、部門を超えて職員同士が出会う場となり、コミュニケーションが自然と生まれるようにするためにも、空間や仕掛け、運用を検討する必要がある。

ABW的な共用スペースのイメージ

